

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名		唐津市立浜玉中学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に比べ、最終評価、学校関係者評価ともA評価が増加した。教職員が、これまでの課題意識を持ち、保護者や地域とのつながりの中での日々の教育実践を協力的、協働的に行った結果の評価であると考え。 ・いじめ問題の対応について、令和5年度と比べて職員・生徒は改善がなされている。今後は保護者との連携図り、職員研修を重ねるとともに、関係機関からの指導を仰ぎながら未然防止、早期発見・早期対応に努めていきたい。 ・学力の向上について、職員、生徒・保護者が授業改善や工夫がなされていると捉えているものの、本県学習状況調査の結果に結びついていない。知識・技能の確実定着を図りつつ、思考力・判断力・表現力を育む単元を通じた授業改善に取り組む。 ・業務改善、教職員の働き方改革については改善は見られたものの、長時間勤務状態が見られる。校務分掌の平準化や年度途中においても柔軟に業務の割り振りを変更するなど改善に取り組む。 			
2 学校教育目標	豊かな心で未来を切り拓く生徒の育成 《めざす生徒像》 持続可能な社会の創り手となる生徒			
3 本年度の重点目標	1.心の教育（人権教育）の充実 2.いじめの早期発見・早期対応 3.学力の定着と資質・能力の育成 4.キャリア教育の推進 5.地域とともにある学校づくり			
4 重点取組内容・成果指標				
(1)共通評価項目				
	評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上		○生徒が主体的に学び、「楽しい」と実感できる授業づくりを行う。	○授業の内容が理解できているという生徒の割合を80%以上とする。 ○県学習状況調査結果の対県平均比を1.00以上。	・単元の始めに「ラーニングマウンテン」を提示して、単元を通して身に着けたい力を生徒に示す。 ・授業の『めあて』を明示し、『振り返り』の場を設定することで、意欲的に学習に取り組む生徒を育成する。 ・新しい学習指導要領のねらいを具現化する教育活動及び学習評価を実施する。
		●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動。	○道徳及び人権教育に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒70%以上。	・人権集会・平和集会や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりや人権教育に関する校内研修及び講話等の実施 ・部活動や学校行事を通して、達成感や成就感を味わわせ、「感動」と「感謝」の心がある生徒を育成する。
●心の教育		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実。	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教職員90%以上。	・生徒観察をはじめ、計画的に生活アンケートや教育相談、QJASTを実施することで生徒の状況を把握し、未然防止・早期発見に努める。 ・いじめが発覚した場合は、早急に対策委員会を立ち上げ、保護者・関係機関と連携しながら解決を図る。
		●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上。	・個々が抱える不安や悩み、問題などに適切に対応していく。本人、保護者の思いに寄り添い適切な支援を目指す。 ・職業講話、職場体験学習、進路学習等を通して、将来について考える機会を設ける。
		○生徒会活動を通して心の教育の充実。	○生徒の主観的な実感や変容について、生徒の振り返りなどで調べる。	・新入生の歓迎行事、文化委員会等の感謝メッセージの取り組み、図書委員会等の平和集会の取り組みなど。
●健康・体づくり		●「望ましい生活習慣の形成」。	●全校生徒の朝食喫食率を90%以上にする。また、給食の残量をなくす。	・生徒会保健部と連携を図り、残食チェックや給食指導の徹底を行う。 ・保健だより等で健康や病気の予防によい食事について紹介をする。
		○学校体育・部活動の充実。	○全国体力検査における体力合計点を全国平均値を目指す。	・教員を対象とした講習会や研修会への参加。 ・生徒の自発的な部活動に取り組み、外部コーチを活用するなど合理的・効率的に運営する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。	・部活動複数顧問を有効活用する。 ・部活動終了1時間後に退勤する。 ・会議日は「定時退勤日」とする。 ・年次休暇の取得日数14日以上となるように、学期ごとに取得日数を確認し、積極的な取得を促す声かけを行う。
		○業務のデジタル化の推進とチーム学校として組織での対応。	○職員のTeamsの登録を100%。 ○職員会議資料のデジタル化。	・日常的な連絡事項等をTeamsを使うことで、いつでもどこでも確認できるようにする。 ・職員会議は校務用PCで資料を管理することで、印刷をなくす。
●特別支援教育の充実		○個々の生徒に応じたきめ細かい対応の実践。 ・授業計画を随時見直しして対応する。 ・交流学級との連絡を密にする。	○個々の生徒に応じた適切な支援ができていないと回答した教職員70%以上。	・教育支援部会や生徒支援協議会を通して、支援について共通理解、共通実践を行い、支援体制を強化する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、積極的に支援会議を実施する。 ・授業計画を随時見直しして対応する。 ・交流学級との連絡を密にする。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				
	評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
	○志を高める教育	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進。 ○人権教育の推進。	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒90%以上。 ○人権教育に関するアンケートに肯定的な回答をした生徒70%以上。	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・人権教育に関する講話等の実施。
	○小中・地域連携	○小中連携と地域連携の充実。	○小中連携や地域連携を図り、生徒の教育活動の充実が図れたと回答する教職員が75%以上にする。	・小中連携会議を実施して、情報の共有を図り、小中連携を推進する。 ・本校の方針を発信し、地域との協働を行い、理想的な関係づくりを推進する。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育